

第31回毛髪科学研究会を開催して

(2023年11月25日, 大手町サンケイプラザ)

天羽 康之

北里大学医学部皮膚科学教室主任教授

はじめに

北里大学医学部皮膚科学教室は、2023年11月25日に東京・大手町サンケイプラザにて第31回毛髪科学研究会(Society for Hair Science Research: SHSR)を開催いたしました。北里大学医学部皮膚科学教室は、過去に第13回(勝岡憲生会長)を担当しており、今回が2回目の開催となります。本研究会は円形脱毛症や男性型脱毛症などの毛髪疾患の

診断治療から毛包に関するさまざまな研究、とくに最近トピックスとなっている毛包幹細胞を用いた毛髪の再生に向けた研究や、損傷皮膚や神経等の再生医療まで、毛髪研究の最先端を発表する学会として発展してきました。毛髪科学研究会は国内での活動に加えて現在は国際化が進み、2年おきに国際学会をアメリカ、ヨーロッパ、アジア、オセアニアのそれぞれの毛髪研究会が順番で開催しています。来年4月には、13th World Congress for Hair Researchがアメリカのダラスで開催されます。

学会内容

当日はたいへんよい天気の中、多くの参加者を迎え、毛髪に関わる研究や臨床症例に関する多くの発表が行われました。今回は、国内からの特別講演として、横浜国立大学大学院工学研究院の福田淳二教授にご講演をお願いしました。福田先生には、上皮系細胞と間葉系細胞から作成した毛包オルガノイド(ヘアフォリクロイド)を毛髪再生医療に利用したり、白髪の治療薬を探索するためのスクリーニングツールとして利用したりするための今後の展望についてご講演いただきました。また、海外からはMelbourne's premier dermatology centerのRodney Sinclair教授に、円形脱毛症の診断と治療についてご講演いただきました。さらに以前より本学会と親交のある韓国との交流を深めるため、日韓合同シンポジウムを開催し、Byung In Ro教授(Hanyang University College of Medicineほか)とJung Eun Kim教授(The Catholic University



図1 毛髪科学研究会ポスター



図2 受付を準備する
医局の先生方

of Koreaほか)のお二人の先生にご講演いただきました。今回は数年ぶりに新型コロナウイルス感染症の影響も少なくなったため、現地開催をすることが可能となり、懇親会も開催することができました。本当に久しぶりに、多くの参加者が現地に集まる機会となり、活発な討論が行われ、とても有意義な会になったと感じています。今回の会の準備はすべて北里大学皮膚科学教室にて行わせていただきました。学会当日の医局の先生方の協力に加えて、会場設定や必要な物品の準備には安藝良一准教授、秘書の伊藤めぐみさんにご苦勞をおかけしましたが、無事に会が行えましたことにたいへん感謝しております。

おわりに

日本の医療のこれからの発展のためには、国際色を強めた学会の開催がいままで以上に重要になると思われます。研究費獲得は年々厳しくなり、さらに円安やインフレで海外への旅費や学会参加費が高額になっていて、国際学会参加が困難になってきています。ぜひ、国内の学会でも若い先生方に刺激を与えるため、国際的なセッションを増やしていただきたいと強く願います。



図3 毛髪科学研究会代表世話人の大山 学教授(右)と著者(左)

今回はこのような会を主宰させていただき、医局員の協力のもと、素晴らしい学会を無事に開催することができたことをたいへん光栄に感じております。この場を借りてご協力いただいた毛髪科学研究会代表世話人の大山 学教授(杏林大学)を中心とする世話人の先生方、演題を発表いただいた先生方、ご参加いただいたたくさんの皆様に厚く御礼申し上げます。